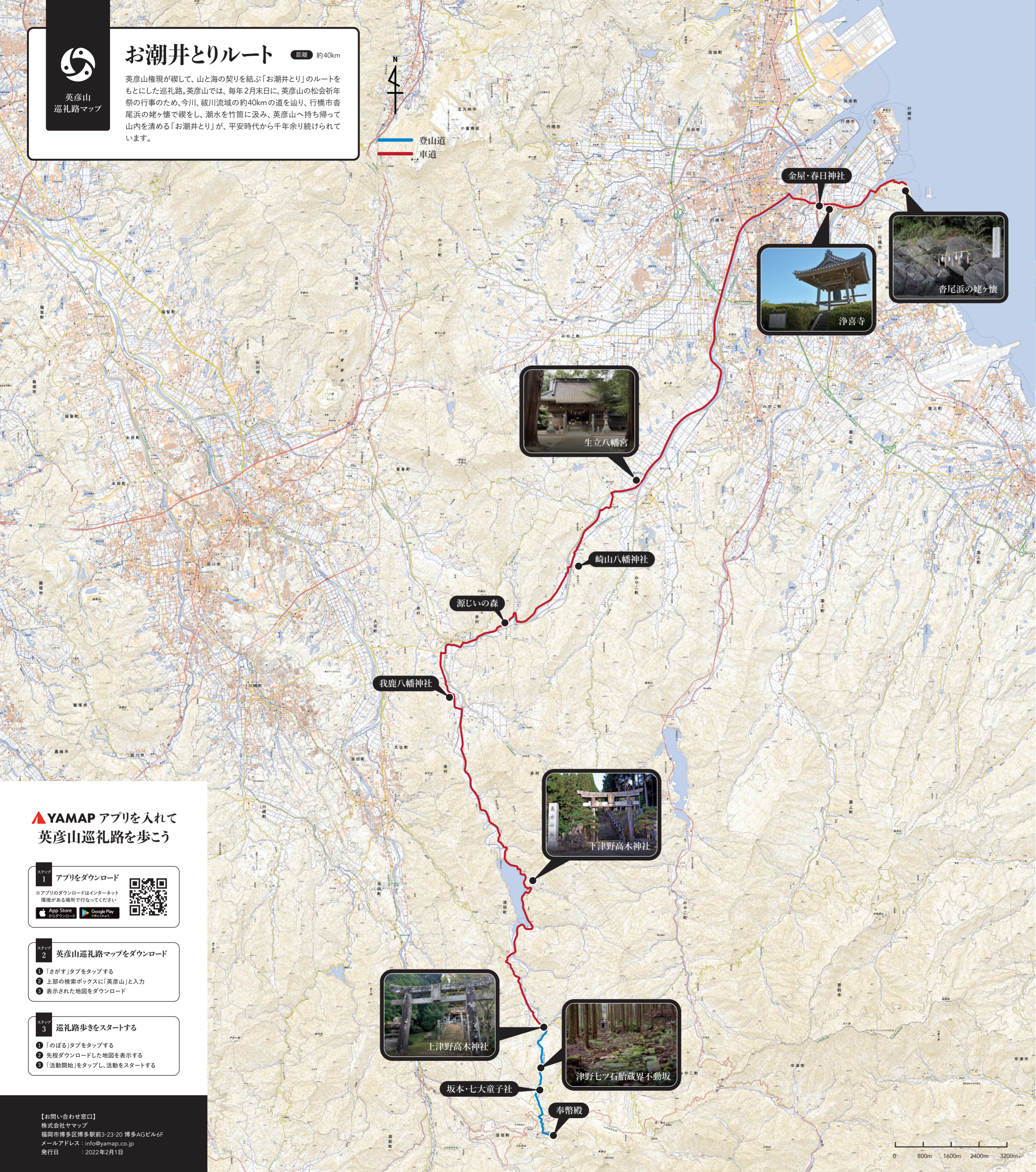




お潮井とりルート

距離 約40km

英彦山権現が棲して、山と海の契りを結ぶ「お潮井とり」のルートをもとにした巡礼路。英彦山では、毎年2月末日に、英彦山の松会祈年祭の行事のため、今川、祓川流域の約40kmの道を辿り、行橋市香尾浜の姥ヶ懐で禊をし、潮水を竹筒に汲み、英彦山へ持ち帰って山内を清める「お潮井とり」が、平安時代から千年余り続けられています。



崎山八幡神社

源じいの森

我鹿八幡神社



坂本・七童子社

奉幣殿



英彦山 巡礼路マップ 全体図



英彦山 巡礼路マップ

掲載ルート

お潮井とりルート 春峰ルート



英彦山は、古来から神の山として信仰されてきた霊山で、日本三大修験の一つでもあります。ご祭神が天照大神(アマテラスオオミカミ)の御子・天忍穂耳命(アメノシホミミコト)であることから「日の子山=日子山(ヒコサン)」と呼ばれてきました。英彦山は、二百万年前に形成された溶岩台地が浸食されてきた特徴的な地形や窟(いわや)が数多く存在し、鬼杉を代表とする杉の巨木がそびえ立つ山でもあります。また、今川、祓川、遠賀川、山国川の源流でもあり、北部九州の水がめの役割を担う大切な山です。

英彦山にまつられる神と仏

英彦山には、北岳・中岳・南岳の3つの峰があります。北岳には天忍穂耳命(アメノシホミミコト)と阿弥陀如来、中岳には伊弉那美命(イザナミミコト)と千手観音、南岳には、伊弉那岐命(イザナキミコト)と釈迦如来を、それぞれお祀りし、三所権現と仰がれています。かつて「英彦山三千・八百坊(英彦山には三千人の修験者と、八百の坊がある)」とうたわれ、明治時代に出された神仏分離令が出るまでは、神と仏を祀る一大拠点として栄えました。



英彦山開山伝説

「鎮西彦山縁起」によると、531年に中国の魏より訪れ、英彦山で修行をはじめた僧・善正は、豊後国日田郡の狐師・藤原恒雄と出会い、教えを論じはじめます。あるとき、1頭の白鹿が弓で射った恒雄の前に3羽の白鷹が現れ、1羽は口ばしで矢を抜き取り、1羽は羽で傷をぬぐい、1羽は檜の葉にひたした水を鹿にふくませました。すると、たちまち鹿は蘇り、走り去りました。鷹や鹿が英彦山権現の化身と感じた恒雄は、善正のもとで修行に励み、名僧忍辱上人となったという伝説があります。



YAMAP アプリを入れて 英彦山巡礼路を歩こう

- ステップ1 アプリをダウンロード**

※アプリのダウンロードはインターネット環境がある場所で行ってください

App Store | Google Play
- ステップ2 英彦山巡礼路マップをダウンロード**
 - 「さがす」タブをタップする
 - 上部の検索ボックスに「英彦山」と入力
 - 表示された地図をダウンロード
- ステップ3 巡礼路歩きをスタートする**
 - 「のぼる」タブをタップする
 - 先程ダウンロードした地図を表示する
 - 「活動開始」をタップし、活動をスタートする

【お問い合わせ窓口】 株式会社ヤマップ 福岡市博多区博多駅前3-23-20 博多AGビル6F メールアドレス: info@yamap.co.jp 発行日: 2022年2月1日



三羽の鷹

開山伝説にちなみ、鷹は英彦山の霊鳥とされています。牛玉宝印(ごおうほういん)や紋にも、鷹がデザインされています。



英彦山がら

英彦山がらからは、約800年の歴史を持つ土鈴です。水を表す青色と太陽を表す赤色を鈴口に彩色し、稲わらで5個ずつに束ねてつくるのが英彦山がらの特徴です。英彦山詣での記念として、また、お守りとして、多くの参詣者に親しまれています。



シンボルマークの由来

三羽の鷹をモチーフにした英彦山巡礼路のシンボル。太陽や循環、生まれかわりを意味する円相を組み込んでいます。

あるく、つながる、うまれなおす。 英彦山巡礼路

道は、遠い昔からの贈り物です。
道を歩くことは、土や、草や木、岩や、生きものや、そこに流れてきた時間、その全てを含む「風土」とのつながりを取りもどす行為でもあります。

先人たちが歩きつづけた道は、現代人が失いかけた「人はこの自然、この地球と一体である」という感覚を呼び覚ましてくれる道。

一步一步、歩く。自分と自然との境界がなくなり、道端の草や木と一つになる。その時、あなたの命は風土とつながり、新たな自分として、再生していきます。